

母乳育児奮闘記

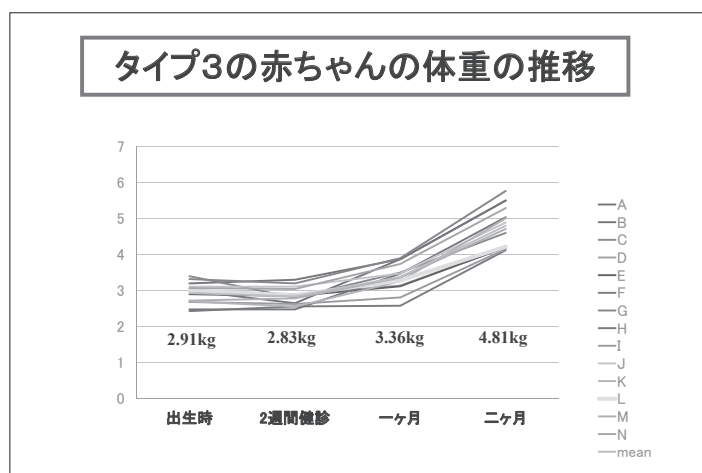
さかいたけお赤ちゃんこどもクリニック 塚 武男

第2回 1ヶ月健診で体重が増えていないこどもたち

赤ちゃんたちの生後の体重の増え方は大体3つのタイプに分けられるようです。この内容は「安心の母乳育児」に書いておきましたが、第一はほとんど体重減少がなく、日齢3頃から体重の増えるタイプ。第二は一番多いタイプで、7%程度の体重減少後、日齢7位から増えるタイプ。体重さえ増えてさえいけばすべてよしという風潮の健診が主である日本では、この二つのタイプはあまり問題にされません。

もう一つのタイプは、産科退院後もなかなか体重は増えず、2週間健診でもまだ減り続けています。ウンチ、おしっこの回数は問題なく、赤ちゃんの肌つやもよく、授乳回数も10回位です。このタイプが「ミルク足せ足せ攻撃」に最もさらされます。私はこの子達を「タイプ3」の子どもたちと呼んでいます。まず2週間健診では体重が増えていないので、ミルクを少し足そうということになります。ところが一ヶ月健診でも出生体重からせいぜい300gくらいの増加しかなく、ここで更にミルクを足しましょうと言われます。

実はこの子達を見ていると、次の一ヶ月で体重がどんと増えます。グラフはこれまでミルクを足さずに母乳だけで見てきた「タイプ3」の子どもたちの体重の平均です。殆どの子達が同じような経過を辿ります。ということで私は次のような経過の子どもたちはミルクを足さないで少なくとも3ヶ月までは経過観察します。



1. 出生体重は正常範囲でAGA
2. 便、尿の回数、肌つやは問題なく、授乳回数も10回程度が保たれている。
3. 2週間健診でもまだ体重減少は続いているが15%を下回ることは少ない。
4. その後は一日20-30g程度の体重の増加がやっと認められ、一か月健診では出生体重より300g程度の増加がある。

というような特徴です。この子達は前述の通り、1-2ヶ月の間に1kg以上の体重増加を見せ、その後も問題ありません。このような赤ちゃんたちに遭遇したら、「あ、タイプ3だ」と考えて少し経過を追ってみませんか？

最近、この「タイプ3」と思われるお子さんが2名、一ヶ月健診でミルクを足すように言われ、その後2ヶ月健診で私のクリニックを受診しました。

その一人目は

38週3日 2640gで出生

日齢16、2755gでミルクを足すように言われる。

一ヶ月健診：2755g、もっとミルクを足すように言われる。

二ヶ月健診：(当院受診) 4.505g!! 母乳6回、ミルク100cc×5回

母乳回数増やし、ミルク減らそうと提案

三ヶ月健診：5180g、母乳10回、ミルク60cc×2回、その後完全母乳となる。

二人目は

39週3日 3374gで出生

日齢10 3088gでミルクを足すように言われる。

一ヶ月健診：3744g、もっとミルクを足すように言われるが母親が疑問に思い少しずつ減らしてきた。

二ヶ月健診：(当院受診)、5245g!! この時ミルクは既に60cc×1回で、前日からは母乳だけにしている。つまり、ほとんどは母乳による体重増加と考えられる。

この時大事なことはミルクを足しなさいと言われ、不安になりミルクを足すと、2ヶ月健診では体重が増え過ぎだからミルクを減らしなさい、止めなさいと言われる。この時、ミルクの減らし方は教えてもらえない(小児科医は分からない)ことがほとんどで、母親は途方にくれることが多い。体重偏重に陥らない、もっときめの細かい健診が要求されているんですね。